

# 第1回 草津市総合教育会議 議事録

平成28年5月10日開催

草津市役所 大会議室

出席者	草津市長	橋川 渉
	草津市教育委員会	
	教育長	川那邊 正
	委員	麻植 美弥子
	委員	谷川 尚己
	委員	杉江 由紀子
	委員	周防 直美
事務局	政策監	佐々木 亨
	総合政策部長	山本 善信
	教育部長	明石 芳夫
	教育部理事	中瀬 悟嗣
	総合政策部副部長（総括）	岡野 則男
	教育部副部長（総括）	居川 哲雄
	教育部副部長（街道交流担当）	八杉 淳
	企画調整課長	南川 等
	教育総務課長	太田 一郎
	生涯学習課長	増田 高志
	スポーツ保健課長	岸本 久
	文化財保護課長	藤居 朗
	図書館長	北相模 政和
	学校教育課長	時岡 善也
	学校政策推進課長	高井 育夫
	まちづくり協働課長	辻 智

環境課副参事

小 川 卓 史

長寿いきがい課副参事

木 村 太 朗

教育総務課参事

松 浦 正 樹

開会 午後 3時30分

橋川市長

それでは定刻となりましたので、ただいまから「平成28年度 第1回 草津市総合教育会議」を開会いたします。

本日の会議につきましては、「学ぶ！生かす！つながる！ ～社会教育委員活動を通して～」をテーマに、議論していきたいと思いますが、会議の中で、教育委員の皆さんと十分に議論を深めたいと思いますので、会議の進行については、事務局のほうでお願いします。

教育部長

それでは、市長より会議の進行を委任いただきましたので、これより、進行は事務局のほうで務めさせていただきます。

議題に入ります前に、昨年度に開催いたしました4回の会議経過をペーパーにまとめ、皆様方の机上に配付をさせていただいております。御確認をいただき、何かございましたら、後ほど事務局までお願いいたします。

また、庁内におきましては、すでにクールビズが始まっておりまして、ノーネクタイ、ノージャケット等の対応をさせていただいておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、先ほど市長からもお話をいただきましたが、本日の会議につきましては、「学ぶ！生かす！つながる！ ～社会教育委員活動を通して～」をテーマに御議論をお願いしたいと考えております。

社会教育は、学校教育に関する教育活動を除く、青少年や成人に対する教育活動で非常に多岐にわたります。本日は、社会教育振興の一翼を担っていただいている、草津市社会教育委員会議の四方委員長をはじめ数名の社会教育委員の皆様にもお越しいただいております。場面場面でお話しいただく機会もあるかと思っておりますので、よろしくお願いたします。

担当課から本市の社会教育に関する現状や課題を報告させていただき、その後、誰もが豊かな人生を送れる社会を構築していくためには、どういった手立てが必要となるのかといったことを中心に、皆様で意見交換をいただければと考えております。

それでは、担当課より、パワーポイントの資料に基づき御説明させていただきます。

生涯学習課参事

みなさん、改めましてこんにちは。生涯学習課の吉田と申します。本日はお時間をいただきまして、「学ぶ！生かす！つながる！社会教育活動を通して」とタイトルをつけさせていただきましたが、今期の社会教育委員の皆様のご取組

を御紹介させていただきます。事務局として2年間、社会教育委員の皆様とともにお仕事をさせていただいて、それぞれの地域での学習活動を重ねておられる姿を知り、また毎回の会議では熱心に御意見をいただき感謝を受けておりました。本日は、社会教育委員の皆様にもお越しいただいております。せっかくの機会ですので、お話も伺いながら、一人ひとりが心豊かに、生きがいを持って暮らしていくために、大切にしていきたいこと、取り組んでいかなければならないことなど、いろいろな切り口から御議論をいただきたいと思っております。

まず、始めに、いつも耳にする「社会教育」。これって何だろう。そんなところから入っていきたくと思います。社会教育については、社会教育法第二条でその定義が挙げられています。そこには、「学校教育課程で行われる教育活動を除いた、主として青少年や成人に対するもので、日常生活の中で、一定の計画と継続性をもって行われる、体育、レクリエーションも含んだ組織的な教育活動」と書かれています。

生きかたも考えかたも多様さをみせている現在、国民一人ひとりが心豊かな人生を送るために、生涯学び続け、成長続け、学んだ成果を生かすことができるよう、法に掲げられた、社会教育の原則を踏まえながらも、より柔軟な生涯学習社会の構築が求められていると考えられます。

そして、本日お越しいただいている、社会教育振興のために一翼を担っていただいている、社会教育委員の職務については、社会教育法の第17条に定められています。一部を抜粋しますと、「社会教育委員は、社会教育に関し、教育委員会に助言するために次の職務を行う」として、「社会教育に関する諸計画を立案すること」「定時または臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べること」「そのために必要な研究調査を行うこと」とされています。社会教育委員は、「学校教育および社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験のある者に委嘱する」とあり、7それぞれ専門的な立場から、民意を行政に伝える大切な立場にある人です。こうしたことから、「地域をもっと良くしたい」「地域の教育力を高めたい」そんな熱い思いを持って、積極的に研究調査を行い、意見を伝えていく、そうした活動が望まれています。

さて、草津市の社会教育委員会議の活動について、近年でまとめられたものについて、御紹介いたします。

平成22年、23年は「地域教育力の向上について」意見をまとめられました。学校・家庭・地域それぞれの視点から、現状・課題から具体的な方策について示されていますが、まさにまとめ活動の最中、23年3月に東日本大震災が発生いたしました。早期の復興に向けて、改めて地域のつながりのためには、地域教育力の大切さであると述べられています。

平成24年度は「協働のまちづくり推進に向けた今後の公民館のありかた」について意見をまとめられました。協働のまちづくりを進めるうえで、今後公民館に求められるものについて、事業面や、また施設といった視点からも望まれる姿について議論を重ねられました。

平成25年度は「まちづくりへ向けてのヒント つながりをつくるための重なり合い のりしろづくり」として、前年、公民館のありかたについて議論された際にキーワードとなっていた「地域をつなぐ人材」というところから、事例を挙げながら、地域の中で、人と人が半歩ずつつながれる「のりしろ」づくりのための工夫についてまとめられました。

そして今期、どのような研究活動を行うか、委員の皆さんで思いを話し合っていました。「ほとんどの人は社会教育ってよく分かっていない。社会教育委員のことも知らないのでは。」という思いと、そこから「草津で頑張っている事例を見せていくことで、これから地域のことは自分たちでなしかしなくちゃというときに役立つものを」「人と地域が、つながり学び合える仕組があれば」といった意見につながり、話を重ねていく中で「社会教育」という言葉では分かりにくいけれど、一人ひとりが生き生きと、豊かな毎日を送るためのいろいろな活動であって、難しく考えず、もっと広がって、人がつながっていけばという思いから、手に取って活かせるもの、見て、聞いて、つながっていこうということから、事例集の作成と事例発表会を行うことになりました。

事例集を作成するにあたって、それぞれの委員が提案したものをそのままとめるのではおもしろくないので、より新鮮な視点から伝えていけるようにという意見から、昨年7月から8月にかけて4名ほどのグループに分かれて、取材活動・体験を通じて、それぞれ委員の皆さんが原稿を作っていました。

玉っ子ひろばさんのママとベビーの防災教室。写真は消火器の使いかたですが、他にはクイズで災害時に子どもと自分を守るためについて学んでおられました。

薪を集めているのは、子ども会6年生のリーダーの奈良の曾爾高原でのアドベンチャーキャンプの様子です。大人は極力力を貸さず、普段の生活とは真逆の不便さを感じる中で、子ども同士で支え合い協力して解決することを学びます。これについては、同行しての活動は少し難しかったので、推薦いただいた飯田委員に取材を行いました。

左下は、コミュニティカフェみいみいです。自宅の一部を開放してカフェ、この日は内田委員と湯浅委員が訪問されています。

その隣は、ほたるフェスタの取組について、笠縫東学区まちづくり協議会へ取材されているところです。

次に写真左上、絵本の広場での一場面です。子育て中の保護者が、一步外に

出るきっかけにと取り組まれています。トラちゃんの中には、今日お越しただいている委員のどなたかが入っておられます。

隣の写真は、土曜大工サロンの取組の取材の様子です。また、一番下は、常盤今昔物語の取組について、取材を行っている様子です。

こうして完成したのが、本日皆様のお手元にお配りした社会教育活動事例集です。きっとお役に立てる一冊。そんな思いで作られました。

この事例集を作るときに、まずは手に取って見てもらえるか、そのためにどんな工夫が必要か意見を交わされました。参考に事例集3ページをご覧くださいと、まず左側のページの上ですが、どんな活動なのか、環境、健康といった6つの分野で示していたり、参加したい、見てみたいときに分かるように現在の活動の場所を記載し、また活動内容の紹介だけではなく、きっかけや成果・取材を通した感想など、いろいろな視点から伝えられるように工夫をしました。取材者の目線で原稿を作っているのです、ページごとに持ち味があります。

そういったことも、見た人に、何かやってみたい、社会に出て学んでみたいという学び活動のきっかけになればと思っています。

それでは、せっかくですので、次に事例集から幾つか事例を紹介させていただきます。

お手元に事例集があるかと思いますが、事例集の5ページ、6ページをお開きください。

アンチエイジング体操サークルの取組です。このサークルは月4回、大路市民センターを中心に活動をされていまして、講師を囲んでダンスや柔軟運動、手遊びゲームなど、どれも脳トレを意識したもので、心身健康に地域でいつまでも生き生きと暮らせるようにと活動をされています。

市民センターのサークル活動だけでなく、要請があれば他所の高齢者サロンなどに出向いて活動されることもあるとのことで、取材に伺ったとき、私も伺ったのですが、体操で体を動かして、体が健康という面もあるけれども、一方、外に出るきっかけになっていると。また、人と出会っておしゃべりをして笑って、心の健康にもつながっているというお話をお伺いしまして、現実にそうなっているのだなということが伝わってきました。

次は事例集の21ページ、22ページです。みんなでわくわくマルシェの活動です。

この活動は、毎月最終火曜日の10時から午後3時まで草津三丁目のビルの一室を使って活動をされています。きっかけは女性の「女性のチャレンジ支援講座」の受講生のかたが自分たちの学びを生かす場として活動されたのですが、参加者自身の学びや経験を生かした小さなお店が並んで、開催日には

多くのお客さんで賑わっています。

お店の内容は、それぞれ御自分の得意なもの、アクセサリであったりとかアロマオイルであったりも並びますし、時にはセミナーなどもあって様ざまなのですけれども、物の流れだけではなくて、出店者や参加者の情報交流の場になっています。

また、このマルシェから自分の道を見つけて次のステージが活動する人もあります。お昼時には出店される手作りのお弁当を楽しみに近所の子ども、高齢者のかたが来られるなど、近所のかたも地域のかたの居場所づくりにもなっています。

もう一つ事例を紹介させていただきます。事例集の27ページ、28ページを御覧ください。学区の豊かな自然を守り育てる活動を通じて地域の絆を深め、子どもたちが健やかに育つまちづくりを行われています。

その具体事業としてほたるフェスタの取組をされています。ほたるを観察するための環境づくりとして、散策コースである葉山川、中ノ井川の周辺の清掃であるとか、ほたる観察のときに足元を照らすための行灯づくりを地域の皆さんで取り組まれました。行灯はペットボトルにカラーセロハンを張るというもので、子どもと大人とお年寄りが協力されて500個を作られたということです。写真の真ん中の部分になっています。

また、観察会に先駆けてほたるの生態を勉強したり、こうした活動を通じて地域の大人と子どもが語って、子どもにとってはほたるを介して地域の愛着心へつなげることができた成果として感じられています。

今、御紹介した事例、掲載されている事例以外にも多くの活動があって、そうした活動を知っていただきたい。また、参加者や活動しているかた同士のつながりから新しいものが生まれるのではないかと期待して、学んで生きがいつくりへの一歩となるように、社★KYOフェスタを今期の社会教育委員活動の集大成として、今年の3月19日に市内での博覧会として行われました。当日は雨だったのですけれども、多くのかたに御参加いただきまして、事例集を拡大した活動事例の展示のコーナー、そのほかには事例集に掲載された活動が実際に体験出来るコーナーであるとか、またふだんの活動を発表していただく事例発表のコーナーがありまして、それぞれ交流を図られてあつと言う間の時間でした。

当日、ホームビデオを回していましたので、良かったら様子を少し見ていただきたいと思います。

— 「動画鑑賞」 —



ホームビデオですので、音と画像がちよっとずれてしまうときがあるのですが、これは最初のオープニングです。みんなで「出会いのまち草津」を歌って、踊ってオープニングを盛り上げました。子どもたちも頑張って合わせて踊ってくれました。

これは事例発表ということで、皆さんがふだんしている活動を御紹介いただいています。玉川学区で取り組まれているセラバンド体操というものですが、御ムバンドを使って関節を動かしたり、無理なく活動が出来るのがポイントということなのですが、体験すると、かなり活動量は多かったです。

この場面は同じ事例発表ですが、子どもの乗り物でロディというロボのおもちゃがあるのですが、それを使って親子でこうして触れ合いが出来る活動を考えておられるのです。子どもがいると体を動かす機会がないのですが、こうしてあくびをしながら、自分の体もリフレッシュしながら子育てを楽しめるよということいろいろ考えられています。

また、子どものおもちゃじゃなくても、バランスボールに変えることで高齢者のかたも運動になったり、いろんな世代のかたが活動出来るような内容を考えられて、地元も教えるという形で指導されたりもしています。

これが今度は各活動の体験コーナーですが、英語で脳トレということで内田委員さんが歌と数字で日本語が脳トレをすると。皆さん、なかなか難しかったみたいなのですが、ふだん、こういう活動コーナーをされています。英語で脳トレ以外にも、科学実験を体験するコーナーであるとか防災パネル試写会だとか、それぞれコーナー幾つかに分かれて、ふだん地域でされていることを紹介いたしました。

本当に濃縮した2時間であつと言う間だったのです。今、玉川のセラバンドのかたが体験されているのですが、こうした環境をお互いが活動することで新しいことにつながったり、横のつながりというのが生まれたなというのを当日感じました。

もうちょっと上手な映像だったら良かったのですが、ホームビデオで申し訳ございません。こういう形で当日は社★KYOフェスタをさせていただいて、いろいろ御協力いただいて（9：15）ました。

今まで事例集とか活動経過について御報告をさせていただきました。活動を（9：32）通じて、それから社会教育の経験を生かして、誰もが豊かな人生を送れる社会を目指してということでどうすればいいか、今日は四方委員長にお話を少し伺いしたいと思っています。

社会教育委員の委員長をさせていただきました立命館大学の四方でございます。ふだん大学では私は教職課程の教諭で、広い意味では教育学なのですが

れども、社会教育というのは専門では全然ないところで、なおかつ委員長という大役を引き受けさせていただきました。

その中で社会教育について印象に残ったことは、すごく広がりがあるなど。もっと平たい言葉で言うと、何でもありだなというのがすごく強い印象です。一昨年に滋賀県社会教育の研究大会に出させてもらいました。これは草津市の事例ではないのですが、滋賀県下の他の自治体の例です。他の自治体で婚活を社会教育の実践例として出されていて、すごく驚いて話を聞きに行ったのです。そしたら、まずは少子高齢化が進んでいる地域で、婚活によって若い人たちを応援したいと。それから、次の世代に何とかつなげていきたいと、まちづくりの大変基本的なことをやっておられるのと、関わっておられるスタッフが基本、高齢のかたが多いですね。先ほどから生きがいというお話が出ていたけれども、皆さん、大変楽しんで婚活でお節介を焼いておられるのがすごく印象的だったのです。ですから、婚活なのですけれども、まちづくりでもあり高齢者の生きがいでもあるというところで、すごく広がりにつながりみたいなものがあるというのが社会教育の大きな特徴なのかなと思ったわけです。

草津市の社会教育委員を私は4年ほど務めさせていただいて、つながりとか広がりといったのが社会教育の大きな特徴で、誰もが実はいろいろなところで関わるきっかけがあるにもかかわらず、社会教育というネーミングが余り良くないのではないかと思います。どうしても堅い印象を持たれてしまうと。これが婚活なんかもありなのにと、私なんかはすごく思って、もったいないなど。皆さんがいろんな場面ですごく楽しんで活躍されていて、もっと肩の力を抜いて社会教育にかかわってもらったらいいのではないかということもあって、こういう事例集づくり、現在、草津市で行われている社会教育、こんな活動、あんな活動、いろいろな活動があります、参加するチャンネルがいろんなところにありますよと知ってもらおうというのが、この2年の活動で力を入れてきたことです。これが最終的に事例集の作成と先ほど映像にありました社★KYOフェスタの開催で結実したところでございます。

私もこの事例集にかかわって、実際に幾つかの活動の取材に同行させていただきました。例えば絵本の広場、事例集の11ページ、12ページのところに載っている活動です。こちらは対象者が未就園児のお子さんと保護者となっていて、実際、親子連れで絵本の読み聞かせに参加されているということです。

ただ、おもしろいのは、そこで話が終わるのではなくて、ここに親御さんたちがつながりを作っていくと。だから、絵本の読み聞かせということに終わらないで、ここにお父さんも入ってくるともっといいと思います。お母さんたちのネットワークづくりになっている。ここに、例えば英語の絵本の読み聞かせの機会もありますよとか、子育て広場的なものもありますよという、ほかの

子育てに関わるイベント告知なんかも挟んでいっているの、絵本の広場に来た人が、更に次の活動に広がり、つながりみたいものをすごく感じたわけです。

それから、絵本の広場の読み聞かせをされているスタッフのかたは、子どもたちが大きくなった姿を見せに来てくれて、自分たちの活動を手伝ってくれたりすると、そういう続けていくことで、赤ちゃんだった子が大きくなって会いに来てくれるのが自分たちも非常にうれしいということをおっしゃっておられました。つまり、やってあげているのではなくて、絵本の広場で読み聞かせをしているスタッフのかたも大変生きがい、やりがいを持って活動されているのが印象的でした。

それから、25、26ページの「常盤“音”今昔物語」の取材も伺ったのですが、これも学区のまちづくりの活動と括れば、そういう括りになるとは思いますが、これを作る過程で学区のいろいろな人たちが、しかも世代をかえて、小学校でもこの歌の発表なんかにも取り組まれているということですので、いろいろな世代が音楽、歌を作るという活動のところでつながっていくということです。

ということで、すごく広がり、つながりというのが特徴的な活動で、いろいろな活動の結節点といいますか、結び目のところに社会教育があって、いろいろな活動とか世代を滑らかに潤滑油的につないでいく役回りが社会教育なのかなと思いました。非常に短期で成果が出るものではなくて、長くこつこつ続けていくといったところで、息長く活動する中でまた種が実ってくるといいますか、そういう活動なのかなということをすごく実感いたしました。こういう活動はいろいろな人に関わっていただきたいし、関われるたぐいの活動であると非常に感じたところでございます。

以上、私のほうでの話とさせていただきます。

教育部長

四方委員長、ありがとうございました。ただいま担当課の生涯学習課からのプレゼンテーションと四方委員長よりの御報告をいただいたところでございます。

誰もが豊かな人生を送れる社会を構築していくために、今ございましたように、つながりというキーワードもございましたし、長い目で、こつこつというキーワードもございました。市民でありますとか団体、地域、そして行政、これは教育委員会と市長部局も含めてでございますけれども、どう取り組んでいくことが大切なのか、これからどうしていけばいいのかということを構成メンバーの皆様のかたで、早速ではございますが、意見交換をお願いできればと思いますので、よろしく願いいたします。

麻植教育委員

社会教育委員の皆様が中心に広げてくださった素晴らしい企画、事業もたくさんあると拝見させていただいたのですけれども、事業をするには必ず資金源が要ると思うのですね。

この事例集の中にはどこからの資金、助成金なり、私は「常盤“音”今昔物語」で平成24年、学区の総会に出まして、そこでこういう案があるのですけれどもとプレゼンもさせていただいて、学区の皆さんに承認を得て、その大きなプロジェクトを2年間かけてかかわらせていただいた経験もあるんです。

この事例のどこを切り取ってもお金が動いていると思うんですね。その部分が見えてこないの、そこを聞かせていただけたらありがたいなと思っています。

金本社会教育委員

アンチエイジングの金本と申します。私たちは助成金なんかはなしで、自分たちが1回、500円をもらった分で、先生の足りないときはボランティアみたいな感じで活動をしています。人数的に歳もいっておられますし、休んだ人は会費をとれませんので、現状維持がいっぱいです。よろしくお願いします。

麻植教育委員

ほかに幾つか聞かせていただいてよろしいですか。

鈴木社会教育委員

これは一つのまちづくり協議会が地域にできて、今、話がありましたが、つながり、広げる、地域に愛着を深めてもらうためにどういうことが地域で出来るかなど。地域のまちづくり計画を作る中で、近くに僕みたいな人間がいるからかもしれないですが、笠縫東学区は「ほたるフェスタ」といって地域でほたるが見られると、是非地域を好きになってもらいたいということで進めています。

だから、金銭的にはまちづくり協議会の事業としてやっていますので、今、市民センターが地域のまちづくりセンターになって、今度、まちづくり協議会が指定管理の形になるので、まちづくり協議会の中で生涯学習、社会教育という面でのつながりというか、何かそこに入って行って、草津に地域協働合校とかあるので、教育行政とまちづくり協議会と一緒に社会教育活動ができたらいなと考えています。

内田社会教育委員

今日は御欠席されている「玉っこひろば」でありましたら、コミュニティ事業団のひとまち☆キラリ活動助成を受けられているかと思っております。

絵本の広場に関しましては民生委員さんの運営ですので、ボランティアで行っているかと思えます。

たんぼさんは、保護者のかたから月謝をとっていて、そちらのほうで運営

していると聞いております。

石本社会教育委員

3ページでございます「わくわく脳の健康教室」は、サポーターさんのかたがた、そして実際に体験して、毎回来てくださる受講生のかたがたが結構いらっしゃいます。受講生のかたがたから500円をいただきまして、その当日のお茶代とかでいただいているという形であります。3名の受講生のかたに500円ずついただきまして、その分でサポーターのほうは人数の多い状態なのですが、サポーターのかたがたと一緒にお菓子を沿えてお茶をお出しする、みんなコミュニケーションをとっていただく時間ということでさせていただいております。

21ページのわくわくマルシェです。今、滋賀県内の至るところでマルシェという形態で開催をされております。そちらと全く同じよう形で、コミュニティビジネス的に出店料いたしまして出店されるかたから1,000円いただきまして、そのかたにはお飲み物が1日フリーですよという形でお飲み物を御提供させていただいて、のどが乾いたときにはお飲み物を飲んでいただいて、そのときにはサービスの提供とかされますので、出店されるかたは今言ったこともされます。時には宣伝ということで、より大勢のかたに来ていただいて、そのかたにも売あげが上がるシステムという形がベストでございますので、フェイスブックとかで情報を発信させていただいたり、FM草津に御出演してお話をして活動をしていただいたりしております。

以上です。

岸本社会教育委員

私は「コミュニティカフェみいーみい」を運営させていただいております岸本と申します。

もちろん、カフェという名前が付いておりますので、私ところの場合は来ていただいたかたは、現実的にはコーヒーが幾らとか、カレーライスが幾らとかの値段設定があつてカフェの経営をしている中で、私がコミュニティを拡大することと世代交流型、うちは南山田学区なのですが、特に支援とか受けられない高齢者の元気なデイサービスとかに行けないかたが引きこもりでおうちにいて、全く楽しくないかたがたくさんいたので、そのかたにターゲットを絞って、うちに来てみんなと交流したらということから、まずコンサートとかを始めて世代交流という形でしたのです。もちろん、そのコンサートはボランティアで来ていただくかたもいるのですけれども、手作りケースと珈琲で参加費は1,500円いただき、私はどんな有名なかたが来られても毎回決まったギャラは均一1万円と決めています。

やはりこういうコミュニティが拡大していきまして、お年寄りのかたがデイ

サービスのようにカラオケの設備があったらいいなとか、例えばこういうことがあったらいいなおっしゃる部分が、私のところでは利益が出なくて、そういうものを買ったりすることはなかなかできないので、補助みたいなものがありておられるのですかと聞かれるのですが全くないもので、もっとそういう部分をとりたいながらのことぐらいです。

麻植教育委員

ありがとうございます。今聞いていて感じたのは、まちづくり協議会から定着するための予算がしっかり出てますので、そこに関わってくださっている団体には、きちっと運営資金もあると思いますけれども、ほかの部分に関しては、本当にボランティアであったりだとか、そのかたがたのお力に頼っているところがあるので、行政としてこの取組を何か支援することができないかなと、聞かせてもらっていて感じた部分です。以上です。

橋川市長

行政と市民活動の団体とのかかわりについては、幅広いところでのかかわりになっていくと思うので、さまざまな団体活動があろうと思いますので、そのきっかけづくりは、例えば初めの段階の助成金という形で進めていただくこともあろうかと思いますが、基本的にはそれぞれの活動団体の中で資金づくり、また場所、そして担い手、参加者など、しっかりと対応をして、そういう継続的な取組ができ上がっていくことが一番広がりもあるし、長続きもする方法だなと思っています。

例えば、今、少し出ていたコミュニティビジネスという話もありましたが、こういうビジネスに取り組んでいただく初めの段階の支援は行政がさせていただくことで、あと、それを継続させていただく部分については、自前というのですか、そういう中で互いに会費を出し合ったり、負担をし合ったりという形で進めていただくことで、よりたくさんのかたがたが参加もし、こういう団体も多く分野で活躍していただく団体の数も増えていくことになっていくと思うのですが、そこらはほかの委員さんの御発言、御提言、御意見もいただきたいなと思います。

谷川教育委員

今の市長の御意見のとおりだと私は思います。総合型のスポーツクラブについても、最初は補助金が必要だと思うのですが、その後、いかにその団体で自主財源を見出すのか、それから自分の健康や生きがいは、やれる間は自分で責任を持ってやるんだという意識を持たないと、これは育たないと思うんですね。ですから、今、聞いていて総合型のことをちょっと思い出して、そういったつながり、関連があるのかなと思うんです。自分の健康は自己負担、更にはいかに自主財源を求めるのかと、その当たりが大事になるんじゃないかな

と思います。

誰かがやってくれるのではなくて、自分の生きがいは自分で見つけるのだと。ますます高齢化が高まっていくので、今の社会教育法の抜粋を見ていると高齢者は入ってないのですけれども、多分ここがどんどん入ってくると思うんですね。そのときにどうするのかというのは、今後、考えていく必要があるのではないかなと思います。

以上でございます。

杉江教育委員

社会教育委員さんの活動を活動事例集という形でこのようにま止められたり、社教フェスタなるものを開催されて、言葉的には本当に耳慣れない、私自身もこういうことを目指しておられるのかなというところはすごく未知の部分がありました。こういったことで聞かせていただくことによって、本当に社会の全てを包括した形での活動をされているんだということがよく分かりました。そういった感激と感動の感想をまず持ちました。

先ほど絵本の広場があった中で、社会との接点をなかなか持ちにくい子育て中のお母さんたちを何かしたらきっかけづくり、接点を持つところを作っていくということは、社会とのつながりの窓口を作っておけることかなとも思いますし、そういった意味では私たち全ての者が社会と何か接点を持ちながら、生きがいを持って生活していくということが、この大きな目的なのかなということをお聞かせいただきながら感想として持ちました。

19ページに載っております「土曜大工サロン」、老上学区でまちづくりと地域協働合校の取組と一緒にされている取組があると紹介がありますが、実はこの幼稚園の鳥小屋の修理を依頼したのは、私がここに勤務していたときで、これがずっと続いているんだと。必要な部分もあるでしょうし、そして携わってくださるかたの御努力もあるかなと思います。

こういうふうにはずっと継続して、していかれている中には大変御苦労もあろうかなと思いますし、後継者の問題もあろうかなと思います。そういったところの御苦労というか、どうつながり合っていくのか工夫みたいなところをお聞かせいただけたらと思います。

それと、ここの部分はこういったところとつながっていくとより効果的な、もっともっと広がりあるものになっていくのではないかという経験の中から思っておられるものがございましたら、聞かせていただけるとありがたいなと思いました。

以上です。

教育部長

取材を通じて感じていただいている内容がございましたら、社会教育委員の

皆さんがたからどなたかお願いできますでしょうか。

生涯学習課参事

すみません、事務局で。実は、今日は「土曜大工サロン」に取材に行かれた委員さんが直接来られてなくて、私のほうでいいですか。

取材に行かせていただいて、実際に活動されているかたにもお話を伺って、先生のつながりがあるかたかなと思います。もともと大工さんで始めた活動ですけれども、今までずっと働いてきて、退職した時点で地域に帰ってくる場所がないと。どうしても退職されたかたの居場所づくり、退職された活動されているので年齢が上がっているのが課題だということで、できれば年齢の若いかた、いろんなかたに入っていただきたいというのはおっしゃっていたのです。

「土曜大工サロン」の活動の中で木を剪定したり草を刈ったりしますので、そうしたときにチップができます。それと給食の残滓を混ぜて堆肥を作って、また地域協働合校、農業合校をされるときの肥料にして循環出来るように活動しているんですけども、それが自分たちだけじゃなくて、もっといろんな横につながりができればいいなというお話はおっしゃってまして、そこも今、模索されているみたいです。有志でガーデンにングをする担当のかたも入れて、そこと新しく活動ができたよということも聞いたりして、地域の中でいろいろな活動がつながっていくことで、まちづくり全体の活性化につながればということはおっしゃっていました。

内田社会教育委員

「土曜大工サロン」でインタビューに答えていらっしゃる大橋さんは、ボランティア活動を通じてよくお会いさせていただいているのですが、大橋さんがよくおっしゃるのは、ねぎらってほしいんですよね。例えば、お金じゃないとおっしゃるんですけども、ちょっと疲れたときにお茶を1杯差し出してあげるかどうかというところで、自分が本当に必要とされているのかどうかというところの確認作業につながっている部分があります。なので、行政のかたにお願いしたいのは、お仕事としていろいろしていただく中で、感謝の気持ちということを何かしらお手紙するとかお茶を1杯差し出すとか、その真心みたいなものが結果的に、大橋さんは既に後期高齢者に入っていますので、代表の伊ッキュウさんを含めて大変高齢化されているんですが、その中で頑張ろうと思う気持ちに至るには、やはり回りのかたのちょっとした一言かと思しますので、お金がかかることでもありませんし、そういう場面を見かけたときに、本当に是非一言声をかけていただけたらと思います。

麻植教育委員

ありがとうございます。私もいろんなところへ和楽器でボランティアをしに行きます。気持ちというのは、演奏に行ったり、ボランティアに行っている者



にとったらとても重要なことであつたりしますので、どうしてもやってもら  
うのが当たり前になってしまうと、そういう言葉がなかなか出にくかつたりしま  
すし、そこは本当に人と人のつながりですから、大事にすべきではないかな  
と思っています。

そして、活動資金について、「土曜大工サロン」のかたは助成金をいただい  
たと書いておられるので、私もプレゼンをしたり、プロデュースをしたりとか、  
いろいろなことを考えながらやる際に、いつも感じるのは受動的であつては駄  
目なので、市民サイドの提案であつたりするのを、いかに行政側がここはこう  
いう形で応援出来るよとか前向きに提案してくださつたりとか、ここではこん  
なことをやっているし、逆にここと一緒にやれたらとか、前向きなお手伝いの  
手を差し伸べてくださるとうれいなと思っています。市民団体をつなぐだけ  
ではなくて、ほかの課、教育委員会や市長部局の課でもそうだと思うんですね。

この中で例として出していただいている「常盤“音”今昔物語」もかかわら  
せていただいた中で、まちづくり協議会だけではなく、文化財保護課からは昔  
の写真を借りました。景観課からは常盤のいいところの景観百選から写真を借  
りました。常盤ですから、農林水産課からは真珠の資料とか写真を借りました。  
いいところ探しについて、各課いろんなところから常盤に関しての資料集めを  
して体育館に貼らせてもらいました。

そのときの校長先生が北島校長なのですけれども、子どもたち自らも新聞で、  
6年のふるさと探検の新聞もありますし、いろんな素材を集めてコーディネー  
ターのかたが発信すると。コーディネーターのとても親身な熱い思いを持って  
おられるかたがたを育てていく、応援していくシステムというのは、お金の面  
だけではなく、やっぱり作っていくべきなんじゃないかなと感じる日々です。  
よろしくお願いします。

川那邊教育長

まず、社会教育委員さんがこういった非常に質の高い活動をしていただいた  
ことを大変ありがたいと思っていますし、私もこのうちの幾つかの活動は存じ  
あげておりましたけれども、全てを見せてもらうと、いろいろところで草津  
のかたが活躍されているなということを改めて感じさせてもらいました。

ここ以外にも草津には、こういった学びに興味があるかたが非常にたくさん  
おられまして、スポーツ文化も含めまして、たくさん活動があります。これ  
は草津の強みであり、自然発生的なもの、あるいは草の根的なものが充実して  
いるなということを感じております。

そこで一つ目の提案なのですが、先ほど四方先生が一番最初におっしゃいま  
したが、参加するチャンネルをみんなにもっと知らせてほしいという話がござ  
いました。行政の支援として、この点は非常に大事なことであると思います。

昔ですと、社会教育というと婦人会であるとか青年団であるとか、どちらかという、行政が提供するような仕組みがあったように思うのですが、今はどちらかという、市民が生み出してきたものを行政がいかに支援して、それをいろいろつなぎながら広げていくかという時代だと思っておりますので、一つの提案ですけれども、社会教育の情報を多く把握して、それを市民のかたに紹介するようなコンシェルジュ的な機能が今、必要なのではないかなということをおもっています。

そう思いますのは、実は生涯学習課のカウンターに来られるかたは、いつも長く課のかたとお話をされて相談をされたり、情報を求められたりしておりますので、そういう土壌がありますので、今まさに相談機能と紹介機能を充実させる時期にあるのではないかなということをおもってとしてまず一つ申しました。以上です。

周防教育委員

少し発言させていただきます。15ページに紹介されている「玉っこひろば」、未就園児と保護者さんを対象にした活動の本当の末端なのでありますが、私も少し手伝いをさせていまして、それが社会教育ということは意識を全然してなかったのですが、さっき四方先生がおっしゃっていたように、ネーミングが堅いというか、社会教育と言われて何かと検索したところから始まったのですが、こういう活動が幅広くあるんだなということをおもって知ることができました。

この事例集を作られたのは本当に御苦労があったと思います。どうやって作られたのかなと思っております、今までの会議録とかものぞかせてもらったのですが、皆さん、本当にいろいろ考えて苦労されて作られたんだと思いました。

どうしても参加はできなかったのですが、社KYO★フェスタのほうもすごく賑わったということをおもって聞いていまして、こういうふうで紹介される活動がまたあればいいなと思っております。さっきも教育長がおっしゃったいろんな紹介するような窓口があれば、始めようと思う人がやりやすいのではないかなと思っております。

あと、行政に求めるというのが、先ほどもおっしゃっていたように資金の問題もあると思いますけれども、例えば「玉っこ広場」でしたら市民センターの部屋を無料で貸してもらえとかいう補助でもいいと思っておりますし、福祉バスを1度借りて遠足に行ったこともあったのですが、その手続が大変だったということをおもっていますので、そういうのをやりやすく使いやすい形というのも一つの応援になるのではないかなと思っております。

以上です。

橋川市長

改めて今回、こういう社会教育活動の事例集をすばらしい取組の中で作っていただきまして、これも市民センターに置かれたり、ホームページ等でも情報発信をしてもらっているということです。こういうことをしていただくことで、新たな市民活動の芽が育っていったり、また継続していこうとか輪を広げていこうとかいう動きにつながっていくということで、大変御礼を申し上げます。

今、市民活動の状況は、ここで紹介していただいた分野も非常に幅広い分野、環境、健康、国際交流、文化芸術、まちづくり、人権という分野で定義をしていただいていますけれども、ほかにもスポーツ分野とかもっともっと幅広い分野があるかと思います。

そういった中で一つ、御紹介申しあげたら、市のコミュニティ事業団が「つながりのめ」という冊子を毎年発行されています。それともう一つ、生涯学習課、教育委員会だと思いますけれども、「ゆうゆうびとバンク」ということで、社会教育活動をするようなかたがたの紹介がされております。「ゆうゆうびとバンク」でしたら、見せていただきますと個人では65人のかた、18の団体、グループが草津市では紹介されていますし、先ほど申しました草津市のコミュニティ事業団が「つながりのめ」を発行している中には、264の市民活動団体が紹介されています。ここら当たりにつきましても、紹介はされているのですが、これがどのような形で活用されているのか、その成果がどうなのかというのをしっかりと見ていかなければならないなと思います。

これらについては、活動内容のみの紹介になっていますので、これを受けて実際に広がりがあったり、つながりができているのかどうか少し分からないところがあります。その点でいえば、今回の事例集につきましては、取組のきっかけとか背景も取材をしていただいていますし、成果と課題あるいは取材を通した感想も丁寧に書き込まれていますので、そういった取組がありますと、私も同じような形で出発をいたし、つなげていこうよという動きにもなっていくなと思いますし、また成果があることが成功というか、そういう体験の中で継続性を保ち、感謝の気持ちが得られるような生きがいにもつながってくると思いますし、更に課題にも触れています。この課題については、これをどう解決してさらなる市民活動の活発化、活性化にしていくというのは、これをしっかりと受け止めて進めていかなければならないなと思っていますところでございます。

これらの課題については、社会教育委員の皆様からお話をいただけたらなと思うところでもございます。

教育部長

それでは、市長から社会教育委員の皆様から活動を通じて課題があればという御発言が今、ありましたので、事例集を編集、取材していただいている中で

感じられたこと、草津市が抱えている課題、社会教育の場面で持っている課題、何か御発言がございましたらお願いしたいと思います。成果という部分をおっしゃっていただいても結構かと思います。

鈴木社会教育委員

社会教育委員が地域に入って、地域の人たちと一つの社会教育活動を一緒にしていくということが「社会教育って、こうなんだな」と地域の人に考えていただけの一つのきっかけ作りになったのではないかなと思います。

それともう一つ、今、欠席のかたもいるのですが、社会教育委員は中でいろいろ議論する中でつながりができて、それがいろいろな面で生かされている点が出ているのではないかなと。それが一つの成果かなと。

課題は、社会教育委員というのが市民のかたに、どういうことをしているんだということをもっと知らせていく当たりがもう少し理解されていくといいと。だから、今回は地域に入って一緒にやったり、取材活動したことが一つの成果として表れているのではないかと思っています。

岸本社会教育委員

私も同じで最初、社会教育委員という堅いお名前ですんなりすることするんだらうなということで、一般公募から参加させていただいたんです。2年前に社会教育委員としてどういうことをするんだというお話し合いの会議のときに、私は漠然として分らなかったのですけれども、課題としましては学校教育があって、コミュニティは高齢者のかたが多くて、子どもさんとか教育に余りかかわらなかったのですが、後半、子どもさんのいじめの問題とかに関わらせてもらって、学校があって家庭があって、その間のパイプ役を社会教育委員がするものだということがわかったんです。学校教育ではがんばっておられるかたにはなかなか目が届かなくて、家庭教育でもなかなか難しかった点が、私が一番最初にコミュニティとは何かと思ったときには、隣三軒、両隣のかたがた、地域のかたがたが手を取り合ってコミュニティを拡大していくことが一番大きなまちづくりになるんだなということで、教育に関してはなかなか難しかったのですけれども、最後に子どもさんのことに携わらせてもらって、本当に学校の先生にも言えない、おうちの中でも言えない、でもたった一人だけ隣のおばちゃんとか隣の人にお話ができただけによって、問題が解決したとか学校教育と家庭教育の間パイプ役をするのが社会教育委員であるかなということを経験させていただきました。

今、事例集ですごくいいことをたくさんされたと思いますが、隠れてそこに参加できない子どもたちとか、親御さんとかがいると思うので、そういう目に見えないかたがたをもっと引っ張って行って、まちづくりとかいろいろ活動に参加するかたを探してきて、そしてその人たちをつなげていくというのが社会

教育委員の役割かなと私としては課題とっておりますので、よろしくお願  
いいたします。

教育部長

では、もうおひとかた、どなたか、この機会にということをお願いできま  
すでしょうか。

内田社会教育委員

先ほどのビデオのほうで英語の脳トレのシーンを見ていただいたのですけれ  
ども、隣にいらっしゃる石本委員が3ページにあります認知症予防「わくわく  
脳の健康教室」をされていらっしゃいまして、そちらから刺激を受けて、私は  
日頃、英会話の講師をしておりますので、内容を取り入れた認知症予防のクラ  
スを始めさせていただいております。些少であります、1回参加して500  
円をいただいているのです。

そういう形になると、私は皆さんを含めて認知症が国家的課題であり、みん  
ながこれに向かって対応していかなければいけないという社会的ミッションは  
みんなで共有しているのだけれども、結局は500円というものをもらってしま  
うと、それは営利であるという立ち位置になってしまって、例えば公民館と  
かにチラシを置けなかったりとかいうことが出てくるわけです。

社会教育は何でもありとさっき四方先生からお話がありましたけれども、何  
をもって社会教育と言うのかどうかという線引きは、厳密に言うと、なかなか  
難しい部分があると思います。市でも教育委員会で後援とか共催という形で名  
義を取ったりとかがあるのですが、ああいったものは短期的な単発のイベント  
に対して出されているもので、こういう継続的な取組ではないわけですね。

先ほど資金のお話も少しありましたけれども、助成金に頼らず自分たちで資  
金繰りを何とかしながらやっていこうとなると、結果的にはそれは営利である  
というパラドックスに入っていくわけですね。

ですから、こうした社会的な取組に対して私も自分なりの自立した中でやり  
たいと思っているのです。情報としてフェイスブックとか便利なものができて  
いますけれども、そこに取り込められないかたがたに向けての情報発信という  
場においては、もう少し行政の力が必要かなと思う場面はすごくあるんですね。  
お金がかからないものでありますし、その辺のことを何か少し考慮、何かの工  
夫で少しお力添えをいただけたらいいなということを感じております。

教育部長

どうもありがとうございます。今、3人の皆様から分野は違いますが、いろ  
いろな思いをお話しいただいたわけですが、このことにかかわって委員  
の皆様から御発言をお願いします。

川那邊教育長

私は行政的な支援ということで先に例を一つお話ししました。たくさん行政的な支援が必要な部分はあると思いますが、今日、二つ目にお話ししたいのは、社会教育主事というのがあるのですけれども、その機能をもっと強化していくことであるというふうに思っています。

今、内田社会教育委員からもいろいろな支援の話がございましたけれども、社会教育主事が専門的な知識を持つことによって、そして更に庁内のネットワークを持つことによって質を高めるための相談に乗れるし、あるいはもしかしたらいろいろなことを活用するような予算的なことについても話が出るかもしれない。そういった社会教育の専門的な力、機能をもっと充実させていくことが大事だと思っています。先ほどお聞きしますと、社会教育委員は庁内に5名とかいう話でしたけれども、これから研修とか認定の資格をとらなければならないということなので、そういった機会もこれから広げていただいて、専門性を高めるような、あるいは高めた職員さんがいろいろなところで活躍されることも期待していますし、教育委員会の生涯学習の中でその機能をより充実させていきたいと感じました。

麻植教育委員

草津市には社会教育関係団体というのがあると思います。その社会教育関係団体のかたがこういう社会教育活動をされているのは、どんな形で事務局としては把握されているのかなと思います。

生涯学習課参事

社会教育関係団体は登録団体になっているのですけれども、8月に前年度の活動状況を活動させていただいております。事業報告を見せていただいて、社会教育として地域で活動されているかを見せていただいて、どうしても活動が足りないと言ったらあれですけれども、助言をさせていただいたりという部分もあります。確認としてはそういった形で8月にさせていただいております。

麻植教育委員

それであれば、例えば事例集にどんどん社会教育関係団体のかたがたの活動が上がってくるのがそれこそ、許可をしている団体だからこそ、例えば公民館を借りるとかの優遇措置があったりとか、いろんな特典があると思うんですね。逆に、やっておられるかたも社会教育関係団体の登録をすることでこれだけのことができますとか、そこら辺の発信を行政としてももう少しやってもいいのかなと思ったり、社会教育関係団体に認定されている団体はもっと積極的に社会教育貢献をしていただきたいなと少し感じました。

すみません。何団体ぐらいあるんですか。

生涯学習課参事

今、ちょっと台帳がなくて。140ほどの団体が。

麻植教育委員

140ですか。

谷川教育委員

今、聞かせてもらっていて、この表題が「学ぶ！生かす！つながる！」と三つあるのですけれども、学ぶというのはそれぞれの団体でやっておられる取組かなと思いますね。今回、このような形で出されたり、発表されることは生かす、今出ているような社会教育の関係団体との連携がにつながるかなと思います。そこをもう少し強化していく必要があるのかなということを今、聞かせてもらって感じました。

この事例集を見せてもらって感じたことですが、世代間交流というのがすごく出てきているんですね。これは今後、ますます必要になってくるのかなと思います。そういう意味で、更にいろいろ関係団体とつながっていく必要があるのかなということも改めて感じました。

以上でございます。

教育部長

だんだん時間が少なくなってまいりましたけれども、今日の限られた時間の中では、まとめという部分については、少し冒頭には申しあげましたけれども、委員の皆さんからもございましたように、社会教育は範囲が広く多岐にわたりますので、今、谷川委員がおっしゃっていただきましたテーマでございます「学ぶ！生かす！つながる！」とかということで、つながるといふところでの強化が必要ではないかという御提言もありました。つながりの部分について、何かお考えがございましたら御発言をお願いできますでしょうか。

麻植教育委員

ここは環境とか子どもとかまちづくりとかいうふうに分類されているのですけれども、今日もそういう意味で御臨席いただけたらうれしいなとお願いしていたのですが、こういう事業展開を市民のかたがやっておられるというのは各課が認識をされていて、例えばどういうふうな後方支援されているかをお聞かせいただけたらうれしいと思います。

教育部長

出席の職員の中で紹介、一例言っていただけでしたら、例えば子ども子育て、環境関係で何かございませんか。

環境課副参事

環境課の小川と申します。活動支援としましては、今、地域で活動しようと思っておられる団体ですとか学校もそうなのですけれども、環境課で登録している講師のかたをこういった中に派遣させていただいたりですとか、あと教材、環境に関するクイズとか透視度計とか網という環境の取組につながる機材の貸

出しを無償でさせていただいております。

教育部長

子育ては今日は来ていませんので、一例ということですが、そういうことも含めて、何らかの情報を持って行政もかかわれるものについてはかかわっていき、そして市民が主人公となって活動出来るような支援、そういう視点に立って行政としては動かさせていただいています。

ほかに何かございましたら、お願いしたいと思います。

杉江教育委員

つながるということでは大変難しいものがあるなど。

だけど、先ほども私は感想で申しましたが、こういったことがあると知ることがまずスタートなのかなということと、各学区のものが内容で載っているの、そこから学区の中でどう活動をされて、それがどう広がりを持つことによって、よりつながりが濃密になったり、広がっていくのかということもまちづくりの中で考えていくことも大事なのかなと思いつながりながら聞かせてもらっていました。ここに載っているのはほんの一部だと思いますので、もっともっといろいろなかかわりをされている団体がこの中にはあるわけなので、それを精査していくことも、組織として社会教育を考えるという大きな視点なのかなということを考えさせていただいておりました。

以上です。

周防教育委員

絵本の広場を先ほど紹介させていただいて、ずっと長く継続されて活動している中で、来ていたお子さんがまた手伝いに来てくれるというのがすごくいいなと思いました。今、お手伝いしている「玉っこひろば」、五、六年ですが、それがずっと続いて、小学生はまだ来てくれることもあるのですが、そういうふうにならないうちに小さかった子が中学生、高校生がこういうお手伝いをしてくれるような活動になったら、それをつながりだと思えます。だから、継続していくのが大事かなと思いました。

以上です。

教育部長

継続をしていくためには、先ほど社会教育委員の皆さんから御意見がございましたように、人の役に立つことで喜びや生きがい、褒められるとか、ありがとうございますとかいう言葉をかけられることによって、ひとつ、モチベーションが上がっていくという御発言もあったのですが、そういうことが継続の力にもなりますし、情報交換を通じてつながりということになりますけれども、教育委員会の中、構成メンバーの皆様の活動の中で、そういう事例も含めて何か感じられていることがございましたら、あと10分ばかりでございま



すので、お話を頂戴できればなと思いますが、いかがでしょうか。

麻植教育委員

すみません。この公民館の講座から出発したという、例えばアンチエイジングの体操もそうだと思いますけれども、継続という意味では、例えば公民館の講座としてずっと応援し、その活動を支援していくとなると、行政が全てやってもらおうということによって行政が自発的なものがなくなってしまうかもしれないのですが、公民館活動、公民館講座との連携みたいなことを社会教育活動の中で、どんなことになっているのかをお知らせいただけたらと思います。

生涯学習課参事

公民館活動からですか。

麻植教育委員

ええ。公民館活動からの出発ということで、公民館にもコーディネーターさんがおられるので、地域の応援団みたいな、一緒に協働で例えば講座づくりをしていく、先ほどもそうですけれども、あとは活動がいつまでもおんぶに抱っこではなくて、自主的な活動につなげていくというのもあるのでしょうかけれども、市民のかたがたが自主的に社会教育活動をしていくには、例えば公民館活動とのコラボレーションをすることによってしやすくなるのではないかなと少し思ったもので、そういうふうな観点で生まれた講座があるのかとか、そういうふうな活動をされている観点があるのかどうかをお聞かせいただけたら。

生涯学習課参事

私の中では直接、公民館講座のつながりはストックとしてないのです。

ただ、例えばやすらぎ学級であるとかいったところで自分たちの学びをあげられてサークル活動になって、そこからまた更に深めていくというのは、例えば自主的教室という形で公民館活動はしておりますので、そういった流れを作っていくように、先ほどコンシェルジュの話もありましたけれども、情報発信をしたり、そういった合間合間をつなぎながらというのがこれから大事になると感じております。

麻植教育委員

すみません、もう一点。公民館というのは、今、まちづくり協働課で補助執行のような形なのでしょうか。まちづくり協議会との関連もありますから、そこら辺のすみ分けとか、今も生涯学習課が主導で全てやっているのですけれども、どこにとってもまちづくりという観点では物すごく共通している部分があるので、生涯学習課とまちづくり協働課との協働作業でしていけるようになっていくのかとか、そこら辺の部分、現状と将来展望みたいなものを聞かせていただけたらうれしいと思います。

教育部長

では、まちづくり協働課も来ておりますので、まちづくり協働の部分から少しコメントをさせていただきたいと思います。

まちづくり協働課長

まちづくり協働課の辻と申します。

今の公民館の部分です。今現在、市民センター、公民館につきましては職員6名で運営をさせていただいております。市民センターにもよるのですが、そのうちの半分の3名がまちづくり協議会の地域雇用で配置して、この6人のかたが地域のいろんなニーズ、または課題等を把握しながら今の公民館講座ですとかを開催していただいている状況でございます。

今後につきましては、まだ予定ではございますけれども、平成29年4月から指定管理者制度を導入いたしまして、まちづくり協議会が行うまちづくりの拠点として市民センター、公民館をコミュニティ施設としていきたいなと思っているのです。この中で地域のことは地域のかたが一番よく知っているということで、その地域課題、ニーズを把握された中で、今までですと講座にこだわった形でしていただいていたのですが、講座にかかわらず、体験の場であったり講演の場であったりと、いろんな部分の学びの場づくりとして発展させていただきたいなと思っております。以上です。

橋川市長

市民センターを今、公民館と言っていますけれども、まちづくりは人づくりとも言われます。今回のこの総合教育会議のテーマに「学ぶ！生かす！つながる！」はなっているのですが、学ぶだけだったら自分が学んで趣味というところにとどまるわけなので、そうではなくて学んだことを生かしていくのだと。これは社会貢献という言いかたでもいいかと思いますが、社会にまた生かし、それを人とひとびとと地域がつながるような形に進めていく形の役回りを市民センター、公民館が果たすべきであるということで、そこでの講座もそういったテーマの講座を設けるとか促していくように持っていく、それが新しい公共と言われますけれども、そういう役回りを持たせていかなければなと思います。これが地域、まちづくり協議会のまちづくりにもつながっていくというように進めていきたいと思っているところでもございます。

川那邊教育長

まちづくりセンターにかかわってです。そこでの社会教育なり生涯学習をより質の高いものにするためには、先ほどから言っています社会教育支援です。ですから、まち協と社会教育主事が何らかの形でつながって行って、これからの社会教育の質を高めるには、専門的な助言であったりサポートをしていくということが大変重要であろうと思っています。

教育部長

5時を回ろうとしているところでございます。最後に市長さんと教育長さんにはまとめをとということをおもっておりますが、今日は余りにも幅が広いテーマでございまして、取りまとめというところではありません。今のところで少し社会教育について人と人とのつながり、市民センターなり公民館の果たすべき役割などを市長さんには少し触れていただきましたし、教育長さんには社会教育主事とまち協とのつながり、連携というお話もありましたけれども、再度、まとめのものについて、社会教育委員さんの意見も踏まえて、お二かたに今後、社会教育をどういうふうに進めていきたいかということも含めて、お話をお願いできますでしょうか。

橋川市長

社会教育と分野の非常に広い、様々な形で市民活動のグループ、団体がこれまでから取り組んできていただいています。それを促進していく、より活発化していくということが非常に大事であるし、それに対して行政が支援をしていかなければならないなというところでございます。

そういった中では、事例集にも書かれていました課題ということもあるのですが、実際に市民活動を活発化していく、あるいは継続していく上で困っていることを具体的にもっと掘り起こしていかなければならない。先ほど少しございましたけれども、営利と見なされて公民館にチラシが置けないんだとかといったことも一つですし、資金の面も自立して活動する上でどういうところに課題があるのか等、より活発化するための取組を広げるための課題をもっと把握をして、それに一つ一つ対応していくという取組が行政としては必要だなと思っております。

もう一つは分野が非常に広い、社会教育というと、教育委員会の生涯学習課の所管ということになってしまうのではなくて、全庁的な支援をしていく、あるいはつながりをつくっていくということが大事だと思います。今日のところであれば、環境だったら環境経済部でございまして、健康だったら健康福祉部、国際交流の所管もあります。そういったまちづくりの所管もあると。全ての行政の部局に関わるのだと。かかわった中で市民活動を活発化するには、自分の部局は何ができて、何をしないとイケないのかということの意識を高めていかなければならないことを今のお話の中でも感じているところであります。

これは具体的に提案というか、私としては部長会とか副部長会とか幹部会の中で、今日のお話も社会教育の置かれている現状と課題、あるいはこれからの展開についてどうしていくんだということの論議を市として取り組んで、そしてそれをいろんな各団体とまた対話もして、より活発な草津のまちをつくっていかなければならないなという思いを強くしていますので、生涯学習課から提案ということになりますけれども、次回の幹部会を出していただきたい

などと思います。そこで論議いたします。

川那邊教育長

私からは一つ目には社会教育コンシェルジュのお話をさせていただきましたし、二つ目には社会教育主事のお話をさせていただきました。今日のお話を受けて、これからの社会教育を充実するためのヒントが幾つもの事例の取組にもありましたし、取組に至るまでのところもありましたし、今日のお話にもありましたが、広報の充実ということは大変大事なことで思っております。つながりという意味でも、「社★KYOフェスタ」を考えていただいて、実際に最後はやっていただいたパワーはすばらしいと思っておりますし、こういったつながりという意味でみんなに紹介する場面を作ることも大事だと思いました。

先ほどフェイスブックという話もありました。実は、街道交流館とか草津宿はフェイスブックでいろいろ紹介される取組が始まりました。そういった時代に合うような形の広報、あるいは教育委員会で行っておりますコンパスの中に社会教育の情報を積極的に入れていくとか、今あるもの、そしてこれから求めるものの中で広報機能を大事にしていかなければならない、そういうことを感じました。以上です。

教育部長

どうもありがとうございました。時間が過ぎましたので、私のほうで今ございましたお話をまとめさせていただきますと、宿題もいただきました。幹部会でテーマを紹介して、横断的に部長会、副部長会で議論を進めていこうというお話が出ました。それには各部局が持っている市民活動のテーマ、活動団体の把握をした上で、行政は何を支援出来るのかということでございます。

教育長からはコンシェルジュでありますとか、社会教育主事の連携という話もございました。それを総括していますと、やはり今日のお話の中では、トータルすると、人と人のつながりでありますとか、継続とか地域での学びを大切にしていく話があるのかなと思っております。そうしたことは行政がどう支援していくか、いろいろな提案も社会教育委員の皆さんからいただきました。金銭的な支援、また場所の支援なんかもそういう中に含まれるのかなということも考えております。

今日はそうした現状を皆様がたで共有した中で、今後、社会教育活動をどういう形で進めていくのか行政のほうも考えてまいりたいと思っておりますし、今後、平成28年度、29年度の社会教育委員さんの集まりの中でもテーマにして議論を進めてまいりたいと考えているところでございます。

まとめにはなりませんけれども、今日のお話の取りまとめかなと私のほうでまとめさせていただいたところでございます。これで本日の議題は終了させていただきます。最後になりますが、皆さんがたで今日のお話を共有させていた

だいて、今後の社会教育活動に生かしていきたいと考えているところでございます。

それでは、教育総務課より連絡事項があればお願いしたいと思います。

教育総務課長

教育総務課の太田でございます。

本日は皆様がたには長時間、御協議いただきましてありがとうございました。次回の総合教育会議でございますが、開催時期等はまた御相談させていただきたいと思いますが、できましたら9月下旬頃に第2回を開催させていただきたいと思います。また、調整させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

橋川市長

これもちまして草津市総合教育会議を閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会 午後 5時03分